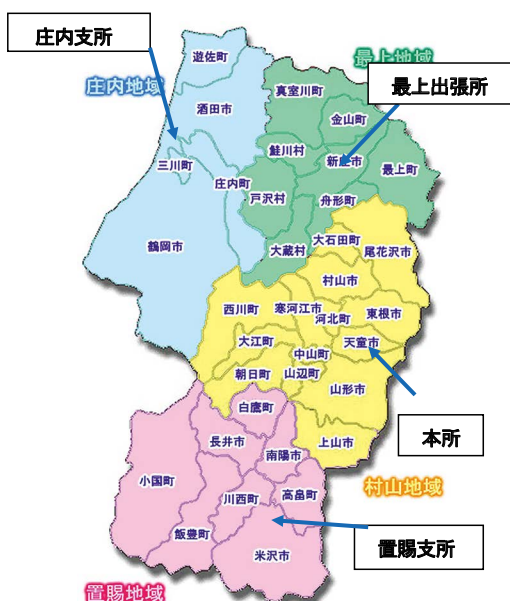


山形県農業共済組合 (NOSAI山形)

1. 山形県の紹介

山形県は、東北地方の日本海側に位置し、全国生産量の7割を占める「さくらんぼ」と



鮮やかな四季で知られています。蔵王、月山、鳥海、吾妻、飯豊、朝日など、日本百名山に数えられる秀麗な山々に囲まれ、県内の最大河川である最上川が、県南部を源流とし置賜盆地から村山盆地、最上盆地へと北上して周辺の農地を潤した後、庄内平野を經由して日本海に注ぐ、美しい自然に恵まれた地域です。山形県を地図で見ると、人の顔の形をしていると言われています。県内は村山、最上、置賜、庄内の4つの地域からなり、それぞれにおいて気候や文化面で違いがあり、異なる特色を有しています。

2. 山形県の農林水産業

村山地域は、水稲と他品目を組み合わせた複合経営農家が多く、寒暖の差が大きい内陸型盆地気候の条件を活かし、高品質な果実（さくらんぼ、西洋なし、りんご、ぶどう、ももなど）の生産が行われています。令和5年には期待の超大玉さくらんぼ「やまがた紅王（べにおう）」の本格販売が予定されています。ほかにも、花き、スイカ、畜産（主に肉用牛）など生産は多品目に及び、野菜では、平成30年4月に「山形セルリー」が地理的表示保護制度（GI）に登録されるなど産地強化が図られています。



きれいに色づいた「さくらんぼ」

最上地域は、稲作単作農家の割合が高く、次いで水稲と畜産を取り入れた複合経営の農家が続きます。近

年は、園芸施設を導入した花きや野菜（アスパラガス、にら、ねぎ、トマト）の栽培も盛んに行われています。

置賜地域は、村山地域と気象条件が同じことから、農業形態も似通っています。果実では、ぶどう栽培が特に盛んで「デラウェア」は日本一の産地となっています。畜産では、乳用牛の飼養が県全体の60%を占める主要産地となっていますが、肉用牛では、GI登録された全国トップブランド「米沢牛」の産地でもあります。

庄内地域は、本県のブランド米「つや姫」と「雪若丸」の発祥の地で、県内水稲作付面積の約4割を占めています。野菜では、露地メロン（庄内砂丘メロン）、えだまめ（だだちゃ豆）、畜産では養豚（庄内豚）、果実ではかき、和なしが主力となっています。

3. 山形県農業共済組合（NOSA I 山形）の概要

- 所在地：山形県天童市小関 1333 番地
- 電話番号：023-656-8988（代表）
- 理事：15名
- 監事：3名
- 職員数：308名（2021年3月末現在）



NOSA I 山形本所

4. 山形県農業共済組合（NOSA I 山形）の活動

平成29年に県内3つ農業共済組合と県連合会が1つとなり、支所機能を備えた本所と2支所、1出張所並びに4家畜診療所及び家畜診療研修所体制で運営しております。

コロナ禍が続く中であっても全国的に大きな自然災害が続発し、農業資材等が高騰するなど農家経営を取り巻く情勢は厳しく常に変化しているのが現状です。組合では日夜、農業共済と収入保険の必要性を農業者へ説明し無保険者を無くすよう、訪問活動を行っております。



制度説明を行う職員

そのほか、令和4年度は「農業女子サポート課」を新設し県内の女性農業者と積極的に連携を図りながら、農業経営の安定化に向けた取り組みや農業保険制度に対する理解を深めていただけるように活動を行っています。また令和4年10月には「やまがた農業女子ネットワーク（通称あぐっと）」が主催する「あぐっとマルシェ」の会場として組合本所



（天童市）を提供しました。当日は県内各地より約1,800名の来場をいただくほどの大盛況となり、当組合としても広く県民にNOSA IをPRする機会を得ることができました。今後も女性農業者同士の交流や働きやすい環境づくりの支援を行うとともに、農業保険への理解を深めていただくよう努めてまいります。そのほか置賜、庄内支所においては合併以前よりNOSA I座談会を開催し、令和4年度も新型コロナウイルスの感染防止対策を行った上で260集落にて実施したところです。今後とも農業者との意見交換の機会を積極的に設け、農業者の経営発展に尽くしてまいります。



R4.10.10に開催された「あぐっとマルシェ」の様子